永久に不愉快な二重生活

芥川龍之介

中村（なかむら）さん。

問題が大きいので、ちよいと手軽に考をまとめられませんが、ざつと思ふ所を云へばかうです。

元来芸術の内容となるものは、人としての我々の生活全容（ぜんよう）に外（ほか）ならないのだから、二重生活と云ふ事は、第一義的にはある筈がないと考へます。

が、それが第二義的な意味になると、いろいろむづかしい問題が起つて来る。生活を芸術化するとか、或は逆に芸術を生活化するとか云ふ事も、そこから起つて来るのでせう。

あなたの手紙にあつた芸術家の職業問題などは、そ

れを更に一歩皮相な方面へ移して来ての問題だと思ひます。

だから「物心両面に於ける人としての生活と、芸術家としての生活の関係交渉」と云つても、それぞれの意義に相当な立場をきめてかからないと、折角の議論は混乱するより外にありますまい。

所で私は前にも云つたやうに、今さう云ふ問題を辯じてゐる暇がない。

が、強ひて何か云はなければならないとなると、職業として私は英語を教へてゐるから、そこに起る二重生活が不愉快で、しかもその不愉快を超越するのは全

然物質的の問題だが、生憎それが現代の日本では当分解決されさうもない以上、永久に我々はこの不愉快な生存を続けて行く外はないと云ふ位な、甚平凡な事になつてしまひます。

　これでよかつたら、どうか諸家の解答の中へ加へて下さい。以上。

（大正七年十月）

底本：「筑摩全集類聚　芥川龍之介全集第四巻」筑摩書房
　　　１９７１（昭和46）年６月５日初版第１刷発行
　　　１９７９（昭和54）年４月10日初版第11刷発行
入力：土屋隆
校正：松永正敏
２００７年６月26日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんで

す。